

地域貢献から地域参画への転換



- 1年: 「**ドリカム講座**」・・・なんちゅうカレッジ版
- 2年: 「**地域づくり**」・・・地域づくりへの提言作成
- 3年: 「**春日の町づくり**」・・・市議会議員への提言作成



**子ども食堂という名の、コミュニティ醸成のための取組。
そして、コミュニティ・スクールならではの、中学生支援の提案、
という化学反応！**

須玖小校区ふれあい子ども食堂（地域の居場所としての公民館）、春日中学校生徒による支援



ボランティア部の結成！
私たちにもボランティアならできるといふ生徒の声。
そして、地域課題を解決する。地域の課題を学校運営協議会
等での議論を通じて、学校も把握している。

光町自治会いきいきふれ合いサロンの支援（春日東中学校ボランティア部）

「社会に開かれた教育課程」実現に向けた大槌高校の取り組み

(1) 目標の共有

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有すること。

●生徒全員・教職員全員でワークショップ

全校集会や職員会議にて、「大槌高校の何を変えたいのか」「どのような学校にしていきたいか」について意見を出し合った。



●地域を巻き込んだワークショップ

100名以上の地域住民が集まり、「大槌高校はどのようなべきか、何を学ぶべきか」について意見を出し合った。



大槌高校魅力化構想骨子（スクールポリシー）

魅力化
コンセプト

大海を航る、^{ハンマー}大槌を持とう

目指す
人材像

自立

意志がある

協働

仲間とともにある

創造

逆境から創り出す

育む土壌

海

地域

空

希望

山

多様性

風

挑戦

学校の
目指す姿

①

生徒一人ひとりの目標が応援され、
それぞれの持つ強み（大槌）を見つけられる学校

②

未来社会に生きる力をつける学校

③

多様な価値観で多様な個性を支える学校

④

地域が学びを育て、学びが地域を育てる学校

大海を航る、大槌を持とう

自立

ジブンゴト

三陸地域の復興や自身の未来に向けた前向きな意志

課題設定

課題解決や自己実現のために、取り組むべき課題を明らかにする力

協働

共感・相互理解

価値観や意見の違いをみとめ、前向きに受け容れる力

One Team

自分の意志をよりよく伝えながら、多様な人を巻き込む力

創造

レジリエンス

困難な状況をプラスに変え、前向きに挑戦し続ける力

価値創造

新しい視点やアイデアをつくりだし、課題解決に活かす力

「社会に開かれた教育課程」実現に向けた大槌高校の取り組み

(3) 地域との連携協働

教育課程の実施に当たって、**地域の人的・物的資源を活用したり、学校教育を学校内に閉じずに実現させること。**

●大槌高校魅力化構想会議の設置

大槌町長が座長となり、中学校やPTA・同窓会等もメンバーに加え、目標を実現するための組織体制を整えた。



●教育課程を支えるコンソーシアムの構築

大学、地域行政、地元企業、社会教育団体、議会議員等をメンバーに加え、教育課程での地域連携・協働を推進する体制を構築した。



マイプロジェクト（個別最適な学び）を支える体制

マイプロジェクト



子どもの発達障害
を考えたい

地域との連携協働



放課後デイとの
連携協働

将来像の明確化



ペアレント
ソーシャルワーカーを
育てたい

進路実現



社会福祉学部へ
進学



郷土芸能の
価値を考えたい



東京大学海洋研と
連携協働



郷土芸能の価値を
地域づくりに
活かしたい



人文社会学部へ
進学

[事例紹介] マイプロジェクトに取り組む大槌高校Aさん



- 東日本大震災津波で、母親と弟、妹が犠牲になった
- 「あのときなぜ家族は逃げなかったのか」という疑問と救えなかった後悔を持っていたが、口に出すことができなかった。⇒マイプロジェクトテーマに



震災時から使用されている「防災行政無線」の課題を洗い出し
よりよいアナウンスへの改善に向けた効果検証実験を実施

1

大槌町役場危機管理室と
協働して課題の洗い出し

複数パターンの
避難アナウンスを作成し
実際に役場職員に録音をしてもらう



2

地域に出かけて効果検証
住民にアンケート調査



3

カウントアップ方式の
無線に避難促進の効果が
あることを提案



大槌釜石の防災無線
(5万人への影響)が
見直されることに

地域の中に学校を、学校の中に地域を。



府中市立

府中明郷学園

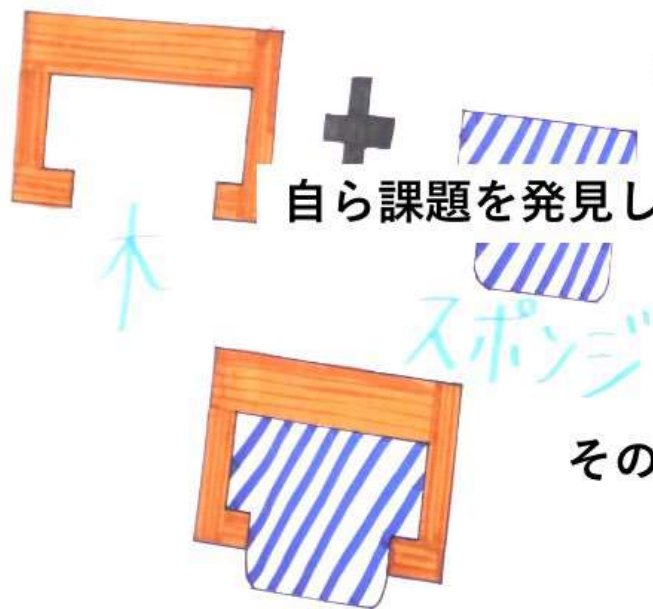
TEL.0847-41-2759 〒726-0027 広島県府中市篠根町661/656番地

Fuchu Meikyo Gakuen



教育目標

断面図



Society 5.0 の時代を生きる児童生徒が、

積極的に生き、働き、豊かな人生を送るため、

自ら課題を発見し、他者と協働して解決に向かうことによって、

新たな価値を創造することを目指します。

そのための教育過程を、社会とともに創造します。



地域協創カリキュラム

地域に関わり自ら学んでいくカリキュラムを実施。
たとえば、8年生では生徒の手による模擬会社LinkSの運営などを行っている。

本校の働き方改革の特徴

KAMOHIGASHI

①保護者・地域・民間企業との協働

外部の視点で学校を見直すことで**意識改革・学校の常識改革**。ミーティングの中で保護者や地域住民の意見を聞いたり、了承を得たりしながらスピード感のある改革を推進。

②コミュニティ・スクールとの一体化

学校・家庭・地域が、育てたい子どもの姿や学校・家庭・地域の課題、学校が担ってきた負担や役割等を共有し、地域ぐるみで子どもを育てる気運を高め、教師が心にゆとりをもって、子どもとじっくり向き合うことができる**組織的な体制を整備する**。

③3領域を通しての意識改革

業務改善・時間改善・環境改善の3領域を設定。そのいずれもで、スケジュール管理や時間対効果等を高め、対象となる業務・行事の目的を明確化して取り組むことで意識改革。スクラップ&ビルド。

業務改善とCS、地域学校協働本部の一体的推進(浅口市鴨方東小)

組 織

KAMOHIGASHI

■ ビジョン

- 生産性を高め、教育の質の向上を図る。
- 時短オンリーの働き方改革からの脱却。
- 持続可能な学校運営のために、CSの導入と、働き方への意識改革の向上を図る。

■ 体制

働き方改革・CS企画ミーティング

わくワーク・CSプロジェクトチーム

【学 校】(7人)

教務・20代教員・30代教員・40代教員・働き方改革CS担当教員(校長・教頭)

【地 域】(4人)

地域住民・企業関係者・PTA会長・PTA役員

【コンサルタント】 (株)ワーク・ライフバランス(東京) 田川 拓磨
Y's オフィス (岡山) 川上 陽子

【連 携】 岡山大学 教授 熊谷慎之輔
コクヨ株式会社・コクヨ山陽四国販売株式会社



改善検討全体会(全教職員)

検討部会(全教職員)

業務改善とCS、地域学校協働本部の一体的推進(浅口市鴨方東小)

業務改善プロジェクト

KAMOHIGASHI

業務内容の棚卸し(何をやって 何をやらないか)

- ・業務内容アンケートを全職員に実施し、検討部会→企画M→全体会で協議し、廃止・簡略化・検討するものに類型化。廃止するものは、即実施。

ただしその前に、**仕分けの方針を共通理解!**

- ・どんな学校にしたいのか
- ・どんな子どもを育てたいのか

時間的に負担	負担度	気持ち的に負担
授業準備	No. 1	校務分掌
学校行事	No. 2	保護者やPTA対応
校務分掌	No. 3	調査・報告書作成
会議・打合せ(校内)	No. 4	学校行事

スクラップ&ビルド

地域みんなで子どもの未来を考えるワークショップ



教職員・PTA役員・地域住民で**熟議**

業務改善とCS、地域学校協働本部の一体的推進(浅口市鴨方東小)

業務改善プロジェクト

KAMOHIGASHI

コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の設置

・育てたい子どもの姿や学校・家庭・地域の課題、学校が担ってきた負担や役割等を共有。

地域学校協働本部(鴨東セカンドスクール)

→読み聞かせ、家庭科実習、放課後学習、田んぼ実習、安全パトロール、スクールガード、アサガク防犯教室、赤ちゃん登校日、通学合宿、子ども食堂、環境整備 他

- ・保護者・地域との信頼関係
- ・生徒指導問題の未然防止



校内生け花



ワックスがけ



草取り



校内パトロール



アサガク防犯教室



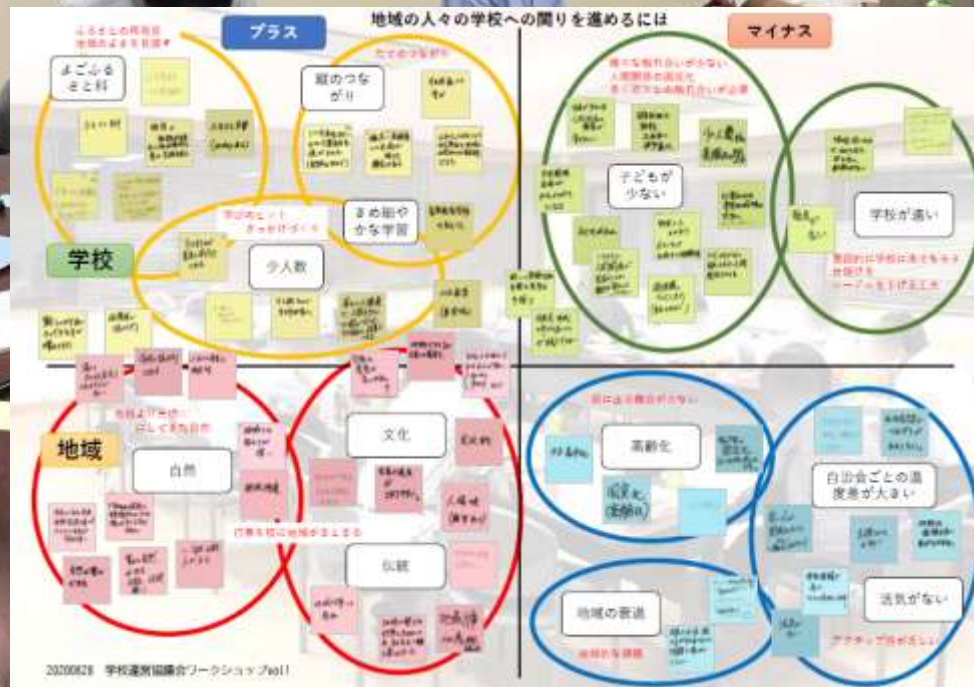
学習支援

業務の効率化 & 教育の質の向上

滋賀県長浜市 余呉小中学校 (義務教育学校)

学校運営協議会 での熟議

- 学校評価の後、これからの取り組みに繋げるため、課題を整理
- 学校事務職員がアプリ「Post-it®」を使って、付箋を一枚ずつ読み込み、PC上でデータとして整理
- 次回の協議会で具体的アプローチについてさらに議論を行う予定



学校事務職員におけるコミュニティ・スクール、地域学校協働活動への関わり、その可能性

共同学校事務室として
チームで進める！

● 学校運営協議会の運営及び参画

- ・学校運営協議会委員としての参画と地域・保護者との信頼関係構築
- ・学校、家庭、地域で共有した目標・ビジョンに基づく学校予算編成と提案、意見聴取
- ・地域連携担当教職員への位置づけ
- ・社会に開かれた教育課程の提案、協議から実施まで <カリキュラムマネジメント>

● 地域学校協働活動（地域学校協働本部）への参画

- ・学校支援ボランティア等における、大学、高校、自治会、行政等との連絡調整
- ・講師との連絡調整、謝金等打合せ・支払い
- ・児童生徒の地域行事参画に関する連絡調整
- ・協働本部予算、学校ファンド等予算と学校予算の調整

（協働本部や後援会等において、自販機収入やバザー収入等により独自財源を確立している場合）

● 情報発信 <子どもを社会全体で育ていく共育環境の醸成に向けて>

- ・コミュニティ・スクールだより、協働本部だより等による積極的発信
- ・校内外環境整備（隠れたカリキュラムとしての校内掲示板等）、ホームページ

学校運営協議会での議論が充実したものとなるためには・・

- ☑ 学校だけが資料を作成し、司会・進行・提案の全てを行っていませんか。
ついつい、先生頼み・学校頼みになっていませんか。

信頼・信任

- ☑ 学校は、家庭は、地域は、協議会という「場」に信頼を置き、それぞれの立場で抱えている様々な良いことも、悪いことも、対等な立場で話すことができますか。お互いに真に情報共有ができていますか。

質問責任・市民目線

- ☑ 「学校が来てくれない」、「保護者が来てくれない」「地域が来てくれない」などのような一方的な考えの押し付けではなく、お互いの立場や考えを尊重した発言になっていますか。

- ☑ 学校は、家庭は、地域がそれぞれに補い合いながら、子供の学びの在り方や学校運営の在り方等について、熟議する時間がしっかりと確保されていますか。学校支援などの活動に限定された議論になっていませんか。

当事者意識

- ☑ 委員が自ら発言を行うなど、委員一人ひとりが当事者意識をもって協議会に参画できていますか。協議会自体が、そのような発言のしやすい雰囲気、席配置になっていますか。

協議会をファシリテートするという視点も重要に

コロナ禍での悩み・・・

- 活動の制限
- つながる場面自体がない

●コロナ禍で学校運営協議会を中止に！？

→「学校運営協議会は重要な場であり、今こそ必要」
「オンラインで開催すること」

●社会に開かれた教育課程の実現に向けて

→学校運営協議会での熟議も含めて実施を要請

●委員の理解を深めるために

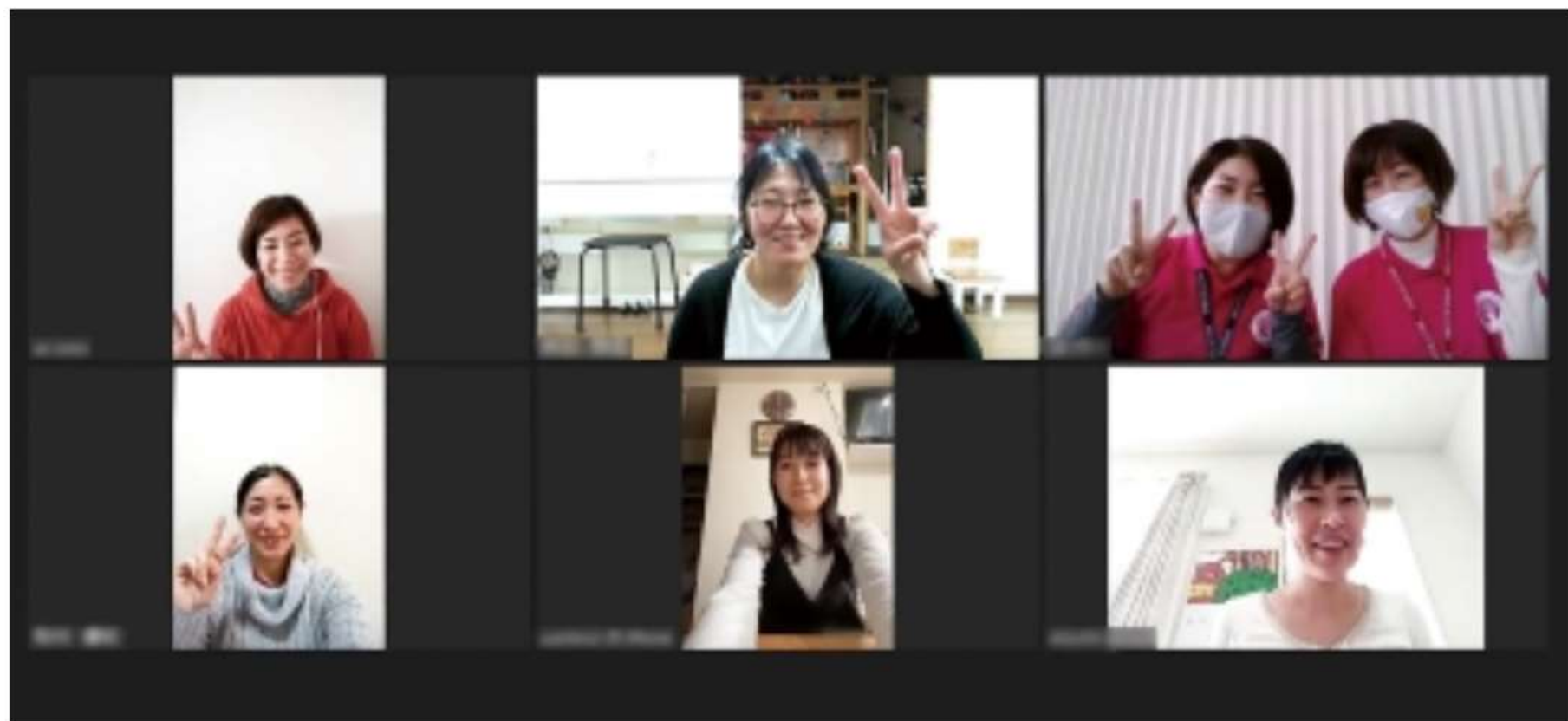
→1・2年目研修会、代表者研修、全体研修、視察研修、任意の勉強会等の学びの機会が至るところに、オンライン活用も

●子供たちはどう考えているのか、どう感じているのか

→学校運営協議会への参画を検討、子供への説明



オンラインによる学校運営協議会：春日東小



オンライン保護者座談会（学校行事が中止され、保護者が学校に行く機会が減る中、保護者同士のつながりを作った）：春日西小

学校運営協議会での熟議(令和3年度) ※予定含む

学校名	月日	熟議の内容
春日小	11/30 第3回運協 2/10 第4回運協	「 今後のオンライン授業について 」 「次年度に向けて」
春日北小	6/29 第2回運協 9/24 第3回運協	「 コロナ禍における学校教育の進め方～ICT機器を用いた学習～ 」 「 オンライン学習の成果と課題 」
春日東小	7/30 第3回運協	「部伍会活動で地域と一層つながり合うための工夫について」
春日原小	6/30 第2回運協 10/4 第3回運協	「これからの地域コーディネーターの活用について」 「 コミュニティ・スクールで非認知的能力を育てる ために」
春日西小	7/7 第2回運協 11/24 第4回運協	「西中ブロックの共育である「清掃」の取組を地域や家庭に広げるには」 「「清掃」について実践後の課題と反省点及び今後の取組」
須玖小	2/18 第5回運協	「コロナ禍における教育活動について」

学校運営協議会での熟議(令和3年度) ※予定含む

学校名	月日	熟議の内容
春日南小	10/19 第3回運協 11/16 第4回運協	「子どもたちの学校生活を充実させ、満足感を感じさせるために」 「未定」
大谷小	10/22 第4回運協	「次年度の学校運営協議会と実働部会の組織について」
天神山小	7/9 第2回運協 11/19 第4回運協	「児童の登下校について学校・家庭・地域がそれぞれどのように見守っていくか」 「後期の重点目標「 気付き・考え・行動する 」を具現化するために 学校・家庭・地域の役割 」
春日野小	10/1 第3回運協 12/10 第4回運協	「 地域合同研修会 の課題から見てきた市民性を育むための教育活動の在り方」 「 地域連携カリキュラムの実践内容の報告を基にした市民性を育むための教育活動の在り方 」
日の出小	2/2 第5回運協	「各コミュニティ（学び、体力、心、安全安心）の後期反省により、次年度の取組について」
白水小	6/24 第2回運協 11/2 WBC合同研	「白水小学校の重点目標である「清掃」について」三者がどのように取り組むか」 「中学校ブロックにおける清掃の取組について」

学校運営協議会での熟議(令和3年度) ※予定含む

学校名	月日	熟議の内容
春日中	12/9 第4回運協	「コロナ禍における部伍会活動や世代間交流について」
春日東中	9/16 第3回運協 10/28 第4回運協	「 地域の中で中学生が果たすべき役割 」 「 自治会との大討論会 を終えて～意見交流～」
春日西中	6/28 第2回運協 11/1 第4回運協	「 校則について ～校則は何のために、なぜあるか、校則は必要か、校則をどう決めるか～」 「10月に生徒と教師、PTAとの校則検討委員会を開催し、そこで決まった校則についてのガイドラインや内容等を学校運営協議会で協議」
春日南中	10/7 第3回運協	「学校の教育目標の達成のために、学校・家庭・地域において何ができるか」
春日野中	12/11 第5回運協 2/21 第6回運協	「 校則見直しについて のガイドラインについて」 「生徒会の取組について」
春日北中	10/29 第3回運協 1/28 第4回運協	「前期の取組に対する学校評価について（第1回学校関係者評価）」 「来年度、北中生に期待すること」

子供たち自身どうしたいのか
どう考えているのか

子供の提案を尊重し、また、自由を保障しながら 大人も子供もワクワクする学校をつくる

- 子供たちは、地域と関わることをどう考えているのか
- そもそも地域のことをどう考えているのか
- そして、どうしていききたいと考えているのか
- これまで子供の声にちゃんと向き合ってきたのか
- 大人が全てをお膳立てしてきていないか
- 学校は、地域は、社会は、子供の失敗を含めて全てを受け止めてくれる、心理的に安全安心な場所になっているのか

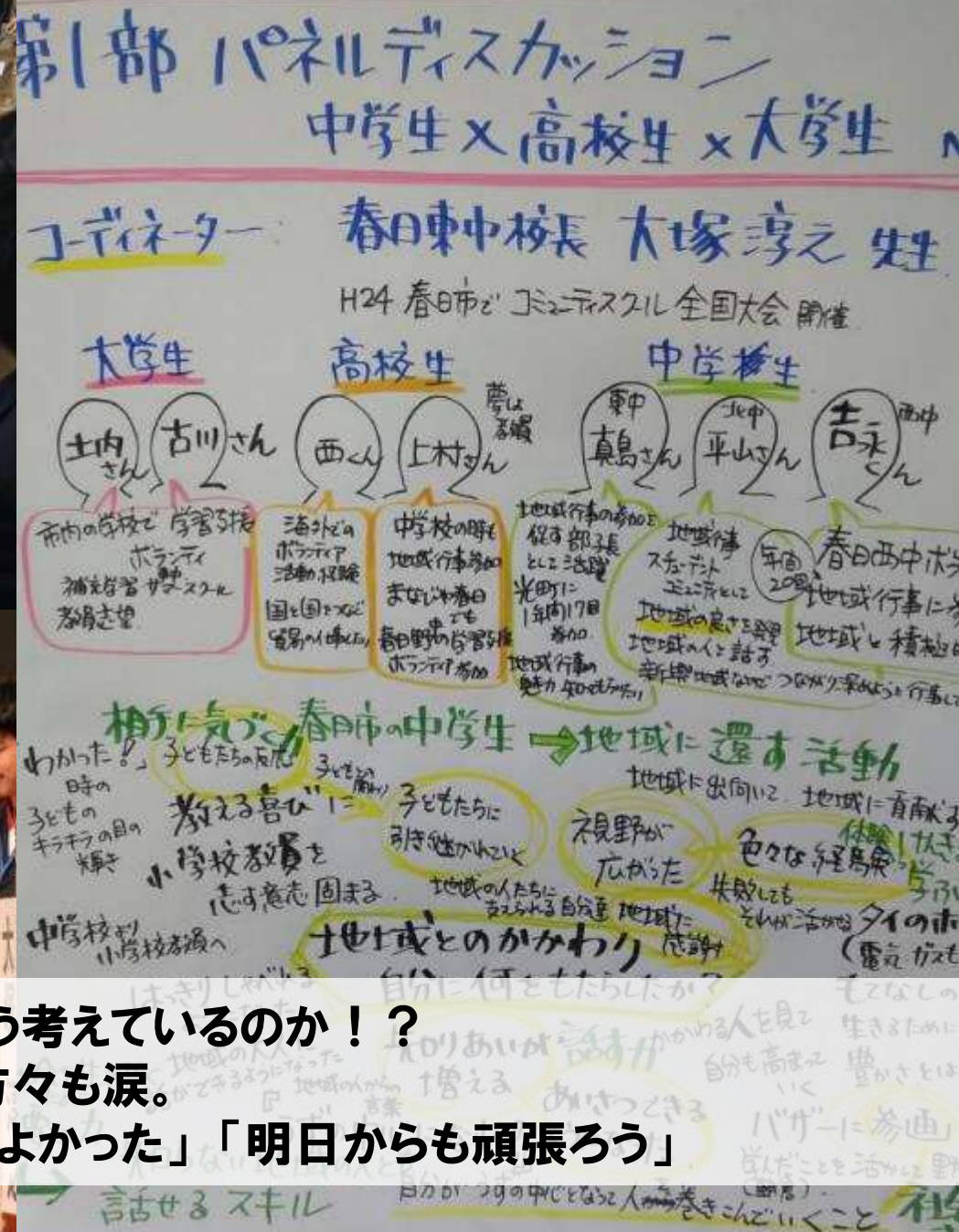
地域交流スペース



島根県益田市立豊川小学校



中高大生自身がCSや地域との関わりをどう考えているのか！？
中高大生の言葉に保護者や地域住民の方々も涙。
「子供たちのために、これまで関わっていてよかった」「明日からも頑張ろう」



天に財金 幸世になるには
他人の役に立つこと

みんながホッとする
やさしい方になる 第1部
NO.2

視野が広がった

地域行事

1つ1つの意味

地域の人々の思いを知

地域の人から

「ありがとう」

主役にならたい

選肢の幅

広がり

~~自己成長~~

他に学ぶ

自分を高める

異文化理解

自分の行動に
責任と誇りを持つ

地域とのかかわり

によって培った力を

どう未来の社会へ活かしていくか?

できるだけでなく
多くの人と交流・対話

社会参加する

自分がうずの中心になる

知らない人と話す力

相手のことを考える

対話すること
視野をたげる

関わる

サイクル

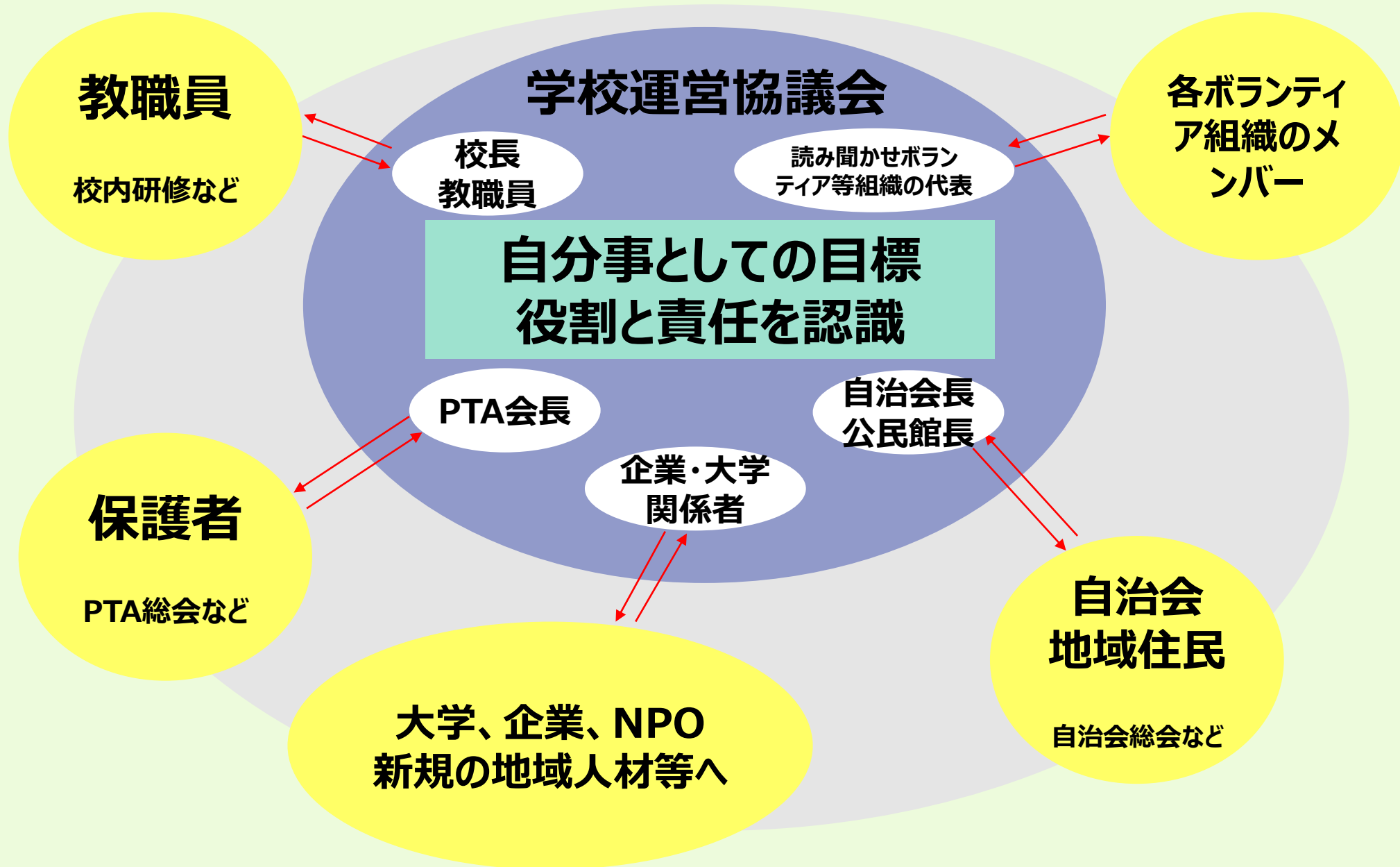
気づきを得る

地域とともにある学校として目指したいこと

- 今だからこそ、子供にとって必要なことや学びとは何なのか、そのために大人が行動すべきことは何なのか、学校運営協議会等で関係者による**対等で徹底的な議論**を。
- 本当に必要な取組を行っていくためには「スクラップ」が必要になる場面も。まさに**学校運営協議会での投げかけと熟議が必要**。(これは既存の協働活動のみにとどまらず、教職員の業務改善、PTA活動など様々な事項が考えられる。)
- 多様な主体である学校・家庭・地域が同じ目標に向かっていくことで起こる**化学反応、イノベーションに期待**したい。そして、このように変えたり、挑戦することを良しとする雰囲気づくり、柔軟さとチーム力が問われる。
- 教育活動の変化と充実、子供に還元されていることを実感できるようなCS、人が変わっても想いと志が引き継がれる**持続可能性の高いCS**へ

チャレンジした経験
皆で何かを成し遂げた経験
これらの積み重ねが
当事者意識を生む

学校のこと、子供のことを自分事として語り、広げる





西中校区自治会役員研修会

自治会運営やコミュニティ・スクールについて、各自治会の計画・活動発表、小中学校の活動紹介、自治会各部の分科会での熟議等を実施。参加者は、学校、自治会、行政。



学校の外で、「地域」が子どもにできることは何か。
寺子屋を開設、子供たちへ学習機会、そして、居場所を提供

地域主体の寺子屋誕生、子どもたちの居場所づくり・学習場所の提供

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動、何が良いの？

子供 にとって	<ul style="list-style-type: none">● 自己有用感、自尊感情の高まり（地域で褒められる、役に立つ）● 学力や基本的な生活習慣の定着 （落ち着いた学校生活、基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立を保護者も認識）● 社会と関わろうとする力やキャリア意識の醸成	学校と家との往復だけでは得られない、貴重な経験。
学校 にとって	<ul style="list-style-type: none">● 学校理解の深化、学校文化の変化● 教育活動の充実と質の向上 <市民目線による意見・反映と協働>● 災害、事故、事件発生時には、地域が非常に頼れる存在に● 地域からの苦情が激減	学校だけで考えることには限界も。 地域と知恵・力を合わせて！
地域 にとって	<ul style="list-style-type: none">● 地域行事・活動の活性化（子供の参画）● 地域の魅力化（安全安心、子育てのまち）● 子どもに関わることが生きがいに «学校を核としたまちづくり»	子どものことを真剣に考えている 町、校区は、それだけでまちの魅力が上がる！そして価値もUP！ マンション広告にCSの文字が！
家庭 にとって	<ul style="list-style-type: none">● 子どもの安全確保、安心感（見守り、子供の居場所づくりの充実）● 親としての学び・成長● 多世代間交流の促進と子育て不安の解消	保護者が地域の大切に気づくこと、 これが地域の持続可能性を高める。

5. まとめ

コミュニティ・スクールは、「地域とともにある学校づくり」を通じた「地域づくり」の取組でもある

子供をとりまく課題は社会全体に広がっているが、課題に直面している人々は分断されている

- 自ら子供たちや教育の問題に関わることで、**社会全体につながっていると感じられる機会**になる
- 市民の**誇り、自信、当事者意識の醸成**につながる
- 単に子供や学校を良くしていく「学校づくり」の仕組みから、
「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組みにつながる。

CSの取組を通じた行政まかせにしない**市民意識の醸成が、様々な分野に波及**

(例)

- ・ 地域への問題意識の高まり、活躍
- ・ 公共性の高まり、相互扶助
- ・ 自主防災組織化の進展
- ・ 食と健康への関心の高まり
- ・ 高齢者の活動機会増による医療費削減
- ・ 社会不安の鎮静



SDGsの実現にも寄与

5. まとめ

コミュニティ・スクールの導入により、
子供を中心にして、地域全体を一つにまとめる次世代の地域づくりを推進

地域とともにある学校づくり

- ・ 地域に開かれた学校（相互の連携・協働体制の構築）
- ・ 地域に支えられる学校（学校のための地域）



学校を核とした地域づくり

- ・ 地域づくりの拠点としての学校（地域のための学校）



子供を中心に学校づくり・地域づくりを考えることで、地域を一つに

地方創生に貢献、さらには国・世界の発展に貢献

ー話し合うー



ー学び合うー



ー助け合うー



ーつなぐー



ー見守るー



コミュニティ・スクールは、地域、学校、保護者、児童生徒の4者が連携し、皆が育ち・育てる、そんなコミュニティを育てるためのしくみです

子どもを地域全体で育てていくこと
とは、その地域の未来を創ること。
多くの人々が、バラバラの**想いを**
一つにまとめて、さらに、一人ひと
りが**当事者意識をもって**、学校づく
り、地域づくりへ**参画**できるか。

今行っている取組や活動が、
学校、地域、そして何より
子供たちの未来
につながっているのか、
皆で改めて考える必要がある

誰かが何とかしてくれる、のではなく、
自分たちが「当事者」として、
自分たちの力で学校や地域を創り上げていく。

子供たちのために学校をよくしたい、元気な地域をつくりたい、
そんな「志」が集まる学校、地域が創られ、そこから、
子供たちが自己実現や地域貢献など、志を果たしていける未来こそ、
これからの未来の姿である。

目標金額
1000万に
挑戦中!

教職員の声を社会に!
学校現場の声を**見える化**する
プラットフォームをつくりたい!



フキダシ
School VOICE Project



- 大人も子どもも大切にされ、幸せに学び、働ける学校づくりのために -